とうほうだい　授業だより［番外編］　～『表札』～

◆今回は、授業だよりの番外編として、今年に入って私の心の響いた詩の内の一編を紹介します。（有名な詩ですが、初めての出会いでした）

『表札』　　作：石垣　りん

自分の住むところには　自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊まりする場所に　他人がかけてくれる表札は　いつもろくなことはない。

病院へ入院したら　病院の名札には石垣りん様と　様がついた。

旅館に泊まっても　部屋の外には名前は出ないが　やがて　焼場の鑵（かま）にはいると　とじた扉の上に　石垣りん殿と札が下がるだろう。　そのとき私がこばめるか？

様も　殿も　付いてはいけない、自分の住む所には　自分の手で表札をかけるにかぎる。

精神の在り場所も　ハタから表札をかけられてはならない
石垣りん　それでよい

◆この詩を読んで感じたことは、潔く、且つポジティブでパワフルな語り口で、「魂の在り場所」を他者によって奪われてはならない、という作者の強い気持ちが述べられているということです。しかし、裏を返せば自分と同じように、他者もかけがえのない存在であると言っていると思います。私達にも、児童達にも、大切な心の持ち様だと思います。

個が生きる　自分が生きる　他が生きる